

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	神奈川県厚木市立相川中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	24
生徒数	108	105	111	3	324	

研究の概要

1. 研究主題

<p>本校の研究主題(テーマ) 「学習意欲を高め、基礎基本を身につける個に応じた指導法の研究」</p> <p>学力向上フロンティアスクールの指定研究を受け本校では、生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図ることを目指し、指導方法の工夫・改善に取り組む。また、地域の人材を活用した指導法の工夫から次の4項目を重点にして研究を進める。</p> <p>個に応じた指導のための指導形態や指導体制の工夫・改善 学習支援ボランティアの地域からの発掘と活用方法の研究 家庭・地域の連携を生かし実践する基礎・基本の学力の定着 小・中学校連携の研究</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>やる気を育てる教科指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業、楽しい授業を目指した指導の改善と工夫 ・学習支援ボランティアの効果的な活用 ・指導と評価の一体化の工夫 <p>やる気を育てる少人数指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の英語と数学による習熟度別による少人数授業の研究 <p>やる気を育てる家庭・地域社会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の効果的な活用 ・家庭学習の習慣化 ・保護者に向けての啓発活動の実施 <p>やる気を育てる小・中学校の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校教員の相互指導協力のあり方 ・小・中学校における情報の共有化 ・指導法の相互研修(交換授業等)

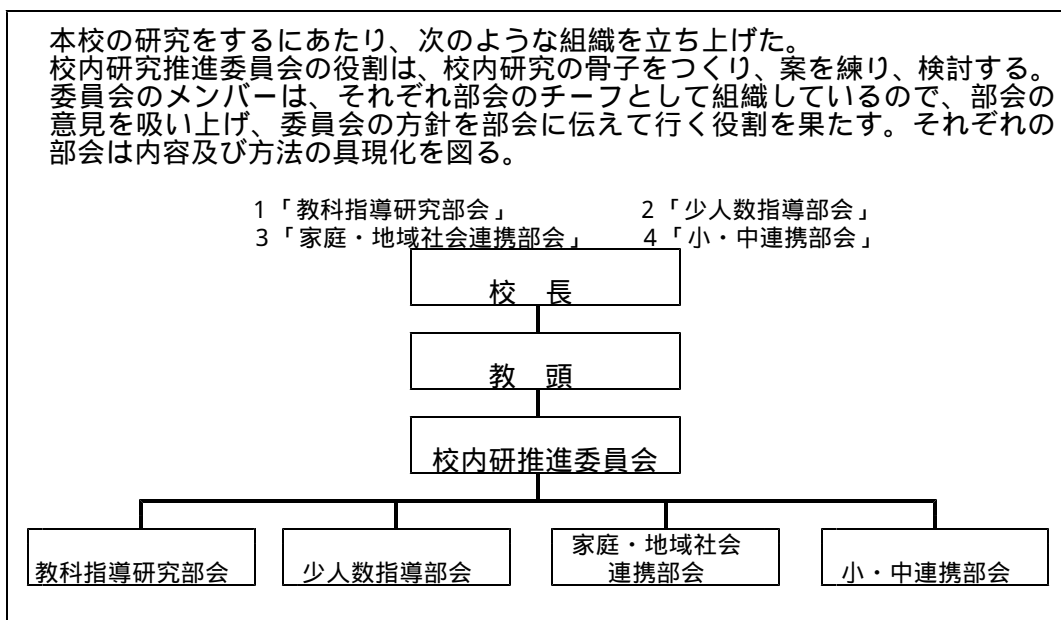
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「学習意欲を高め、基礎基本を身につける個に応じた指導法の研究」</p> <p>研究の見通し 「テーマ設定、研究内容や方法の検討」</p>
--------	---

	研究の内容・方法 個に応じた指導形態の在り方に関する研究 地域の人材を活用する方法の研究 ・学習支援ボランティア 指導と評価の一体化を目指した授業実践・授業研究
--	--

平成 16 年度	テーマ 「学習意欲を高め、基礎基本を身につける個に応じた指導法の研究」 研究の見通し 「研究の実践と深化」 研究の内容・方法 個に応じた指導形態の在り方に関する研究 地域の人材を活用する方法の研究 ・学習支援ボランティア 指導と評価の一体化を目指した授業実践・授業研究
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>教科指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教科、月ごと、改善や工夫点、個別の指導について職員会議提案を実施した。 ・全教科を通じて、教師間の連携や助け合いが強化された。 ・学習支援ボランティアの活用研究を進めることができた。 <p>少人数指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識調査のアンケートから、分析し考察し指導に役立てることができた。 ・アンケート結果から、少人数指導では、生徒の肯定的な意見が多かった。 ・「わかりやすくなり、質問しやすくなった」という意見が大半である。 ・英語の「発言・発表回数」や「質問しやすさ」については、学年が上がるごとに数値も高くなっている。特に3年生は「発言回数」が「少し増えた、増えた」と感じている生徒が7割近くまでいる。また、逆に「減った」と回答している生徒はどの学年も1割以下である。 ・「理解しやすさ」については、どの学年も半数以上の生徒が理解しやすくなったと感じている。 ・「次回の授業が楽しみか」について2年生は半数の生徒がそう感じている。
--

- 家庭・地域社会との連携について
- ・学校からのお知らせ「相中通信」「学年だより」「学級通信」などが家庭に届きやすい。
- ・数学と英語の学習支援ボランティア発掘ができた。
- ・家庭や地域からの協力が得やすく、学校行事などが円滑に進み実行できる。
- ・保護者会や学級懇談会への出席状況がよい。

- 小・中学校の連携
- ・小学校、中学校における生徒の様子や、授業の様子を知ることができた。
- ・小学校、中学校の教師間の交流の基礎ができた。
- ・小学校、中学校における行事間交流や協力性が進んだ。

2. 今後の課題

- 教科指導について
- ・教科の評価と指導の一体化の具体化
- ・教師間による相互の授業研究の取り組み
- ・シラバスの作成

- 少人数指導について
- ・少人数学習のクラス分けの仕方は、現状でよいか
- ・習熟度別クラスとして機能するには、現在の17, 8人ずつに分ける方法より、発展20人前後、基本10人前後である方がよい。
- ・毎日の宿題について
- ・宿題の提出のさせ方の検討と宿題の内容の検討
- ・学習支援ボランティアの方に、固定した日程固定したクラスの担当はできないので、十分活用するに至っていない。
- ・教材の共有化と評価については、共有プリントを利用したり、コースにより内容を変えたりしている。

- 家庭・地域社会との連携
- ・家庭や地域からの意見を積極的に取り上げ、学校の教育活動に反映させるための方法を考える。
- ・保護者向け啓発活動の実施企画運営について
- ・家庭学習の習慣化や宿題の効果的な活用方法を考える中で、家庭の協力などを呼びかける。

- 小・中学校の連携
- ・指導方法の相互研修や相互協力のありかたをさらにさぐる。
- ・小学校と中学校の情報の共有化を図っていく。
- ・研究の今後の課題を明らかにするとともに、次年度（最終年度）の研究の方向をさぐる。

学力等把握のための学校としての取組

全校生徒の学習意欲に関わる意識調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年10月15日（水）第3愛甲地区学力向上推進協議会において報告
- ・平成15年10月17日（金）第2回教育指導方法の改善に関する研究会
 - ・公開授業実施
 - ・研究経過の進捗状況（報告）
- ・平成16年1月30日（金）第4愛甲地区学力向上推進協議会において報告
- ・平成16年2月 厚木愛甲地区教頭会で15年度の進捗状況を報告

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無